

立齋

州卷畫譜

二編

213

松母堂

毒疥

茶

中道

二編



茶を筆

草筆畫譜二編序

草筆畫譜二編序

筆小真州行の體あり人も亦是は一般禮儀を

志あり、近來の形容も亦あり、余小ありて

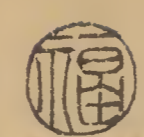
竊ぐむ字あり、予素より酒客あるゆゑ、是を

酒斤比するに、酒もやこれに齊し、或は執乃禮

象、其あり、茶亭、此樓上の宴、行あり、家、

陸、意、酒、也、州、也、頃、日、獨、坐、小、酒、の、字、跡、を、

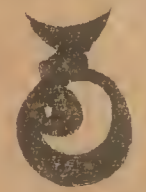
閑、あり、藤、器、の、形、に、似、て、画、譜、初、編、の、唱、采、



稱引酒の二集をひいて是が身口小序せよ空以ふ
 廣重めも先考は朋友あり。君小一代の舊識あれ
 とも僕性鈍く筆とるにすじ唯無をと敷は妙あり
 以の心筆は劣らんや此の醉裡の廣言免し可なり
 採る魔けは妙を速に去婢の命を惜を出さば獨
 徐に汲飲する若を嘲り夕の醉今も及び今法酒を
 聖のよまる飲も不醉醒もども又飲む無飲初て予
 立高一家の重則倚り山水の氣韻溢るる如く筆
 密重よりも細く寫意自在を形せり研草筆法風流
 俊雅森羅万象或眼下画上頭仙都より玉り筆下自
 天介小遊ふももすは悉皆生景或筆にやその妙
 新奇妙案は法高号乃一子ありて寔に一流也
 子心や心をむ

嘉永三年庚戌初秋

本町菴小三馬醉中誌



道江八景



六歌仙



六歌仙

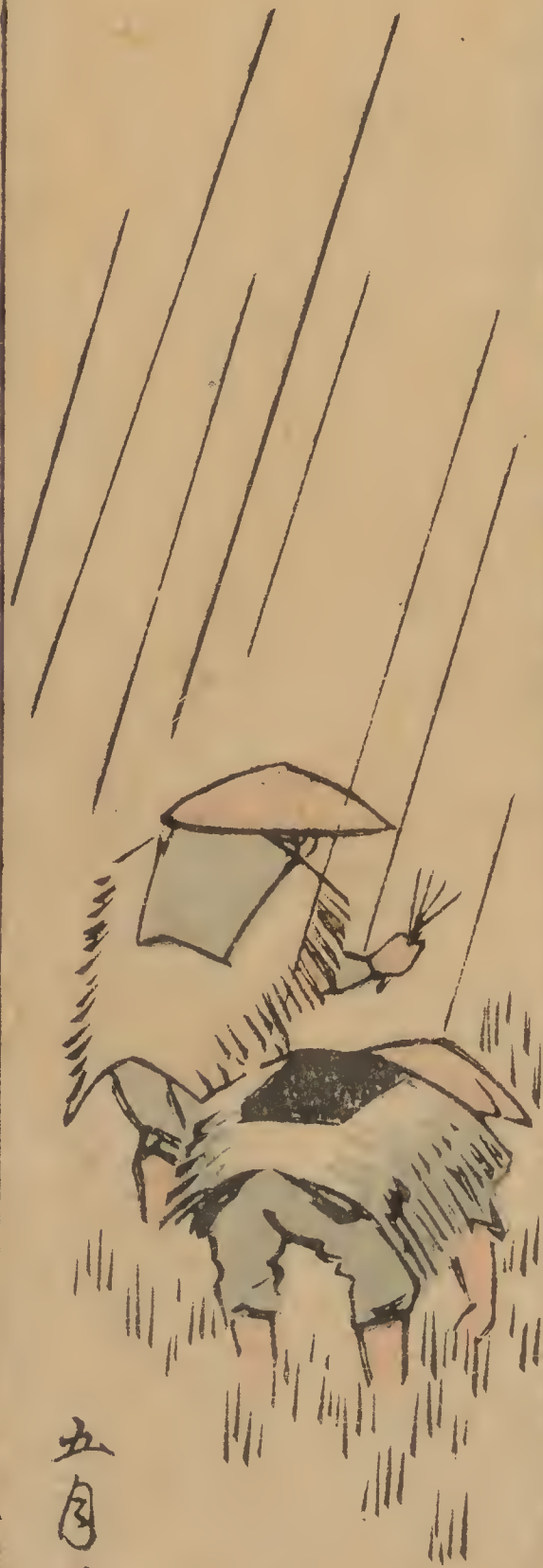
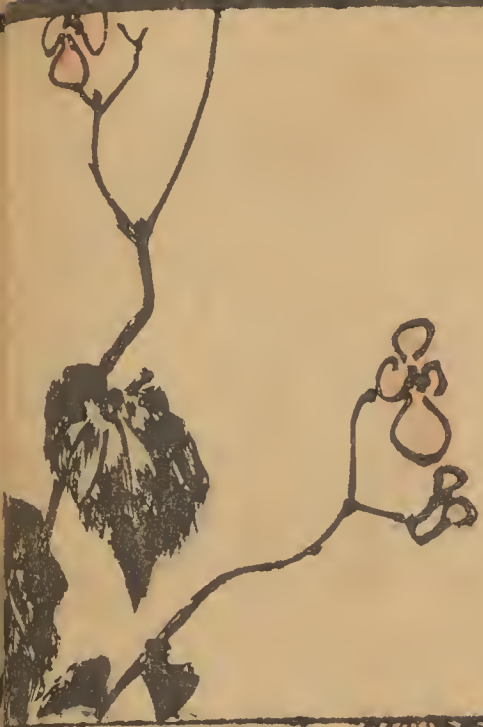
年
終



年
終



海苔取

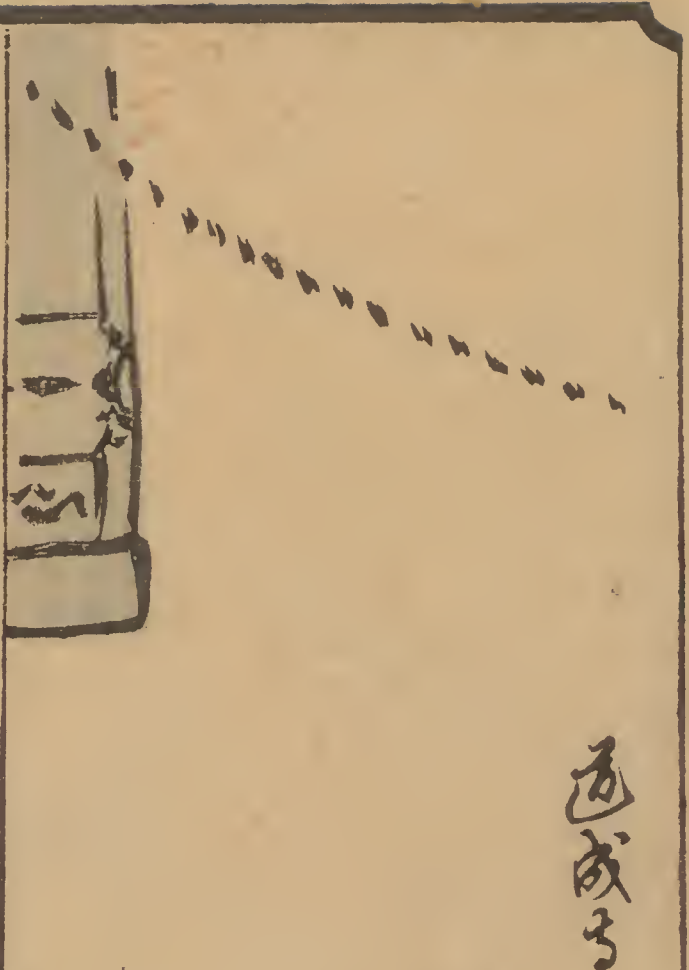


五月雨



在御





初進帳

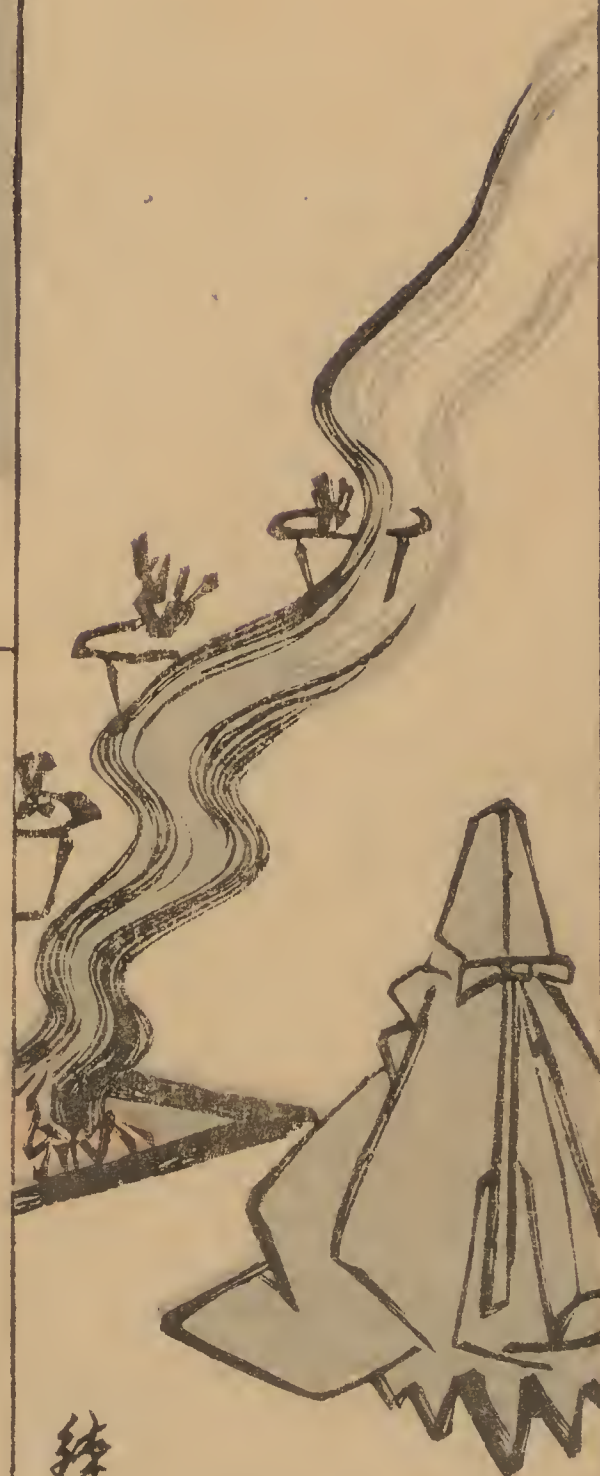


夜打



助六

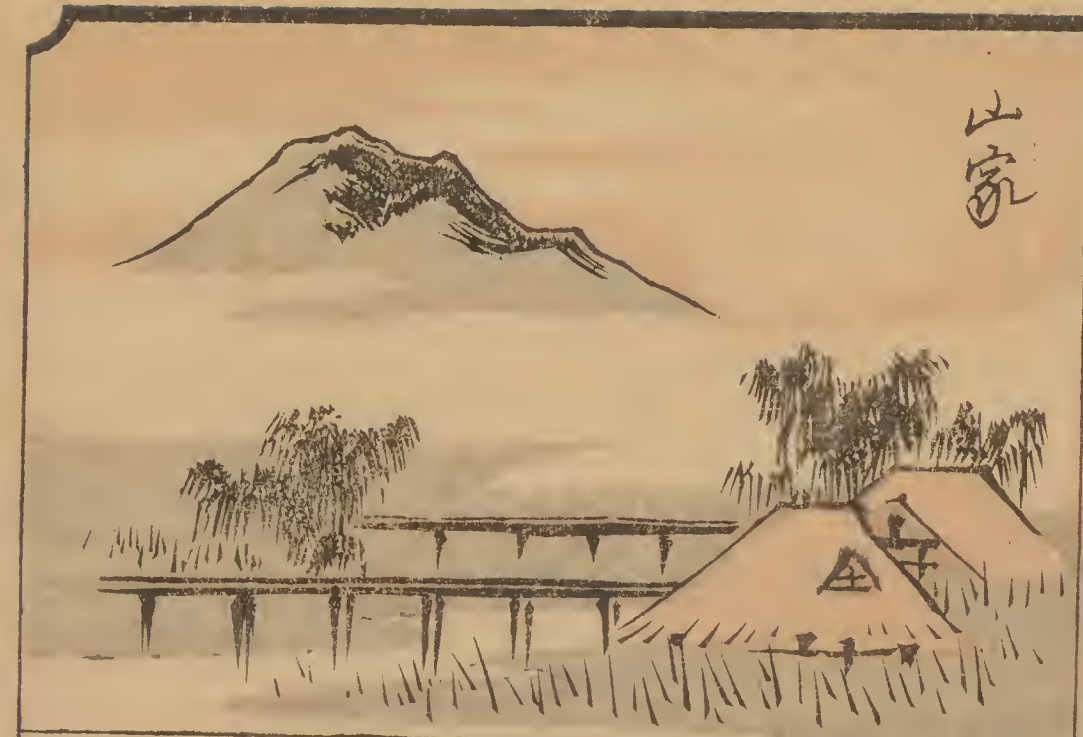
九段目



絆の本



政長



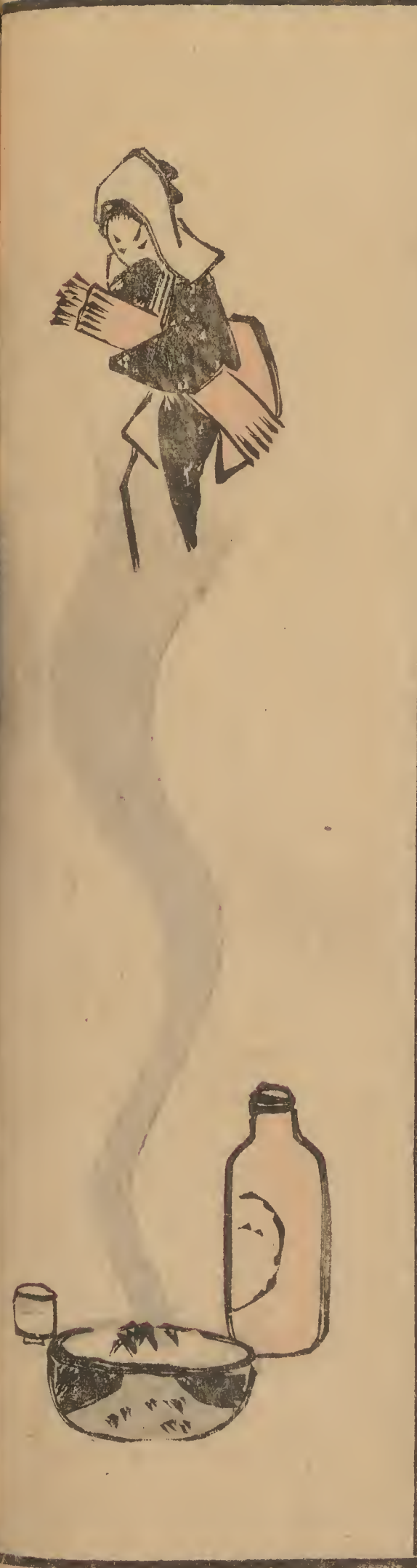
山家



夏



住吉



湯方



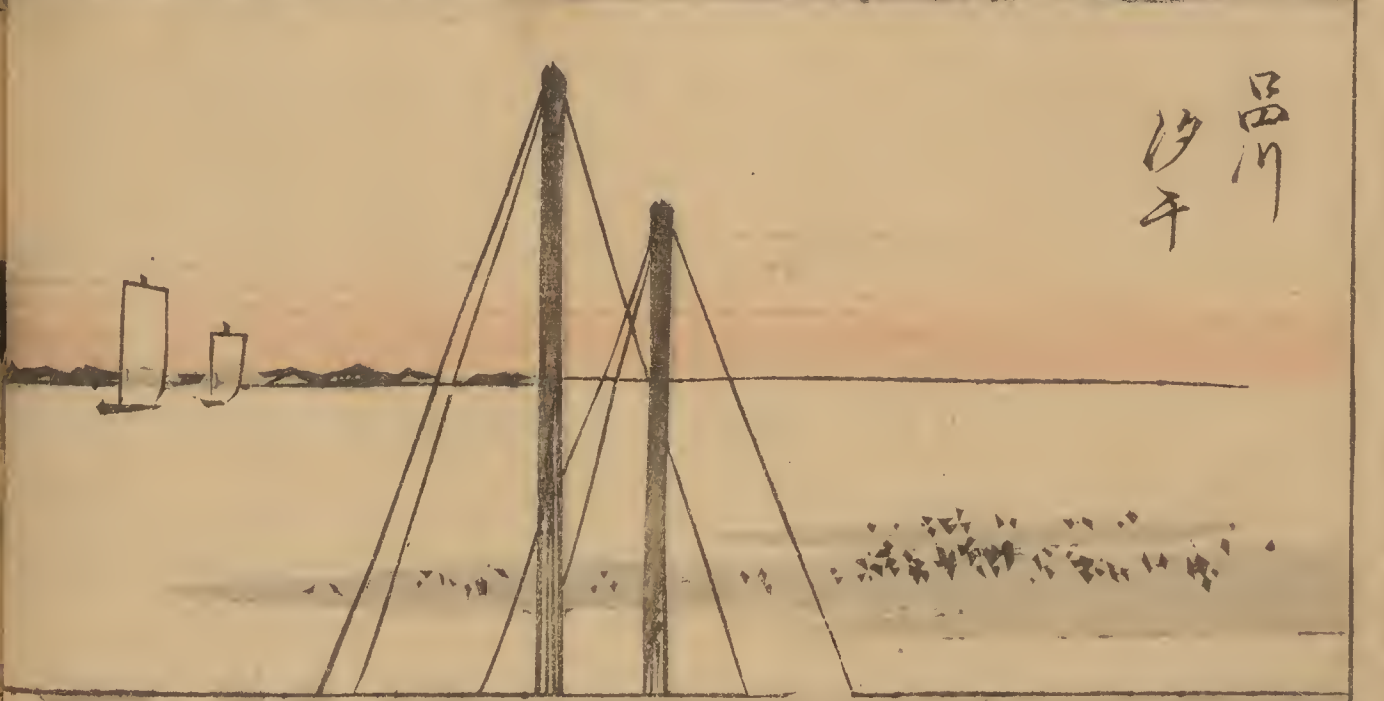
永代橋



例橋



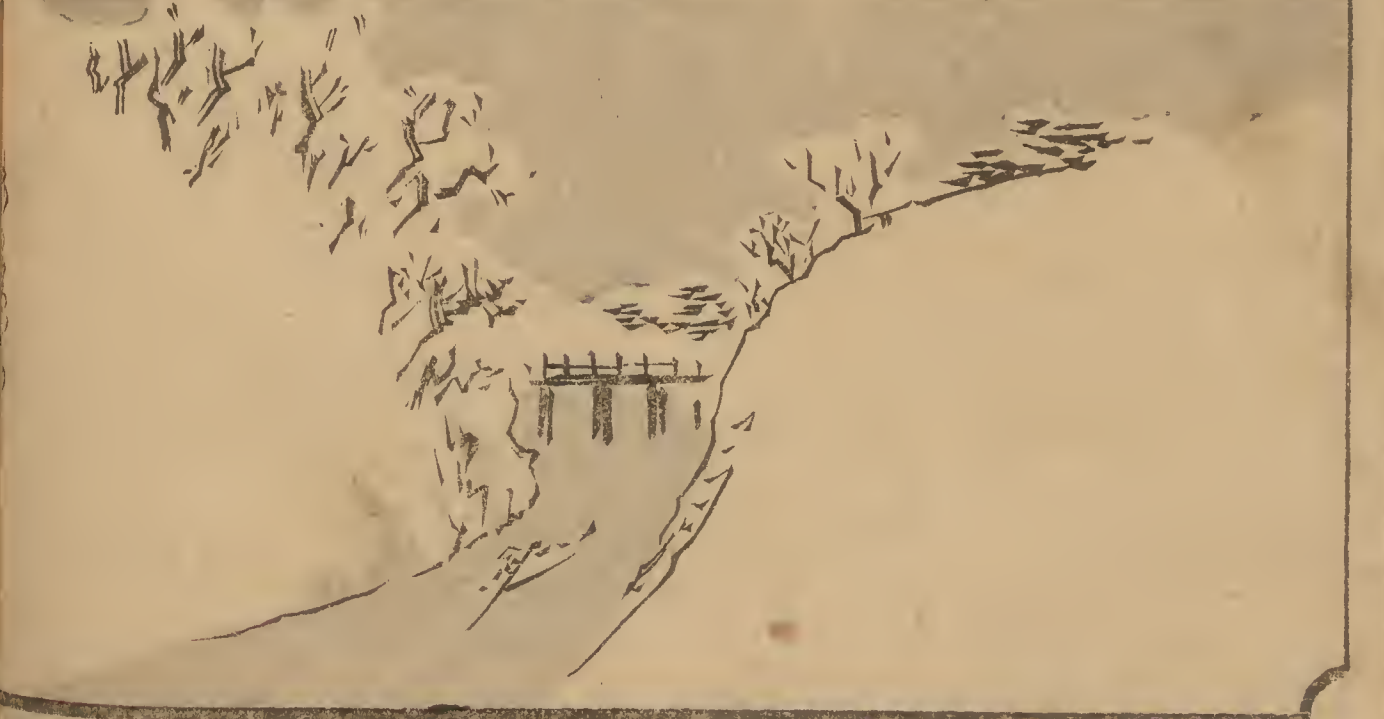
七里濱



品川
汐干



戸田後



國府 臺



大隈川

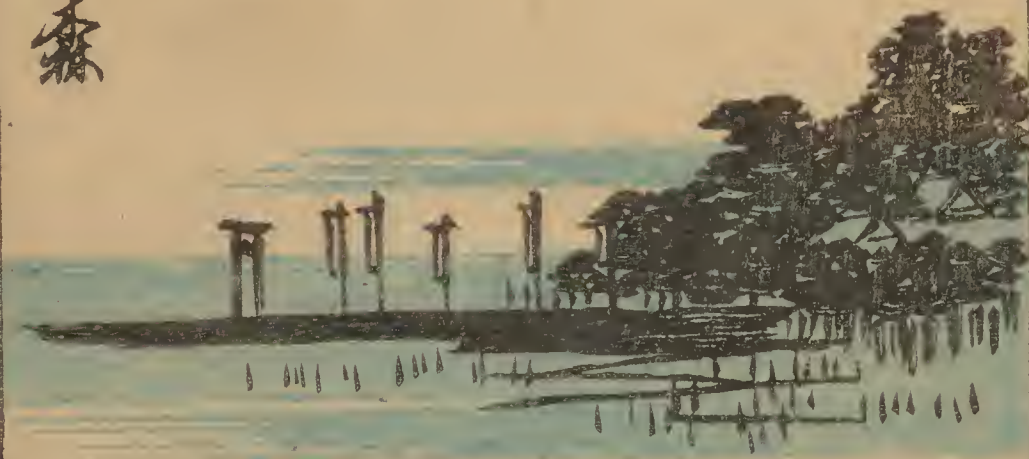
新比奈 切通



梅屋



吉原

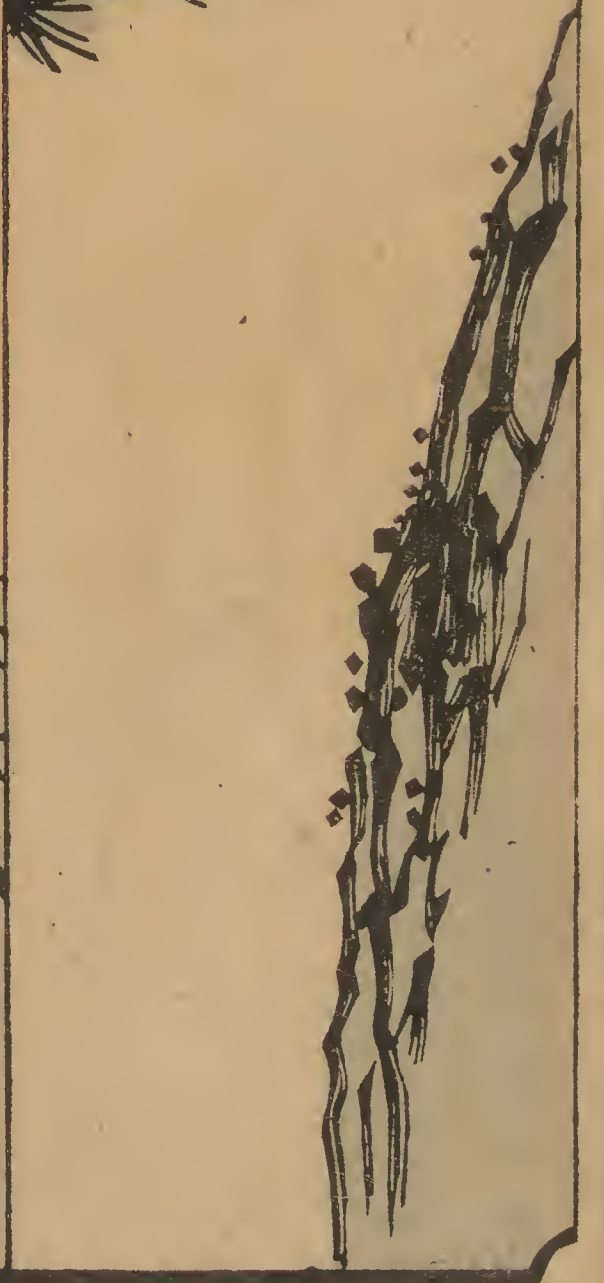
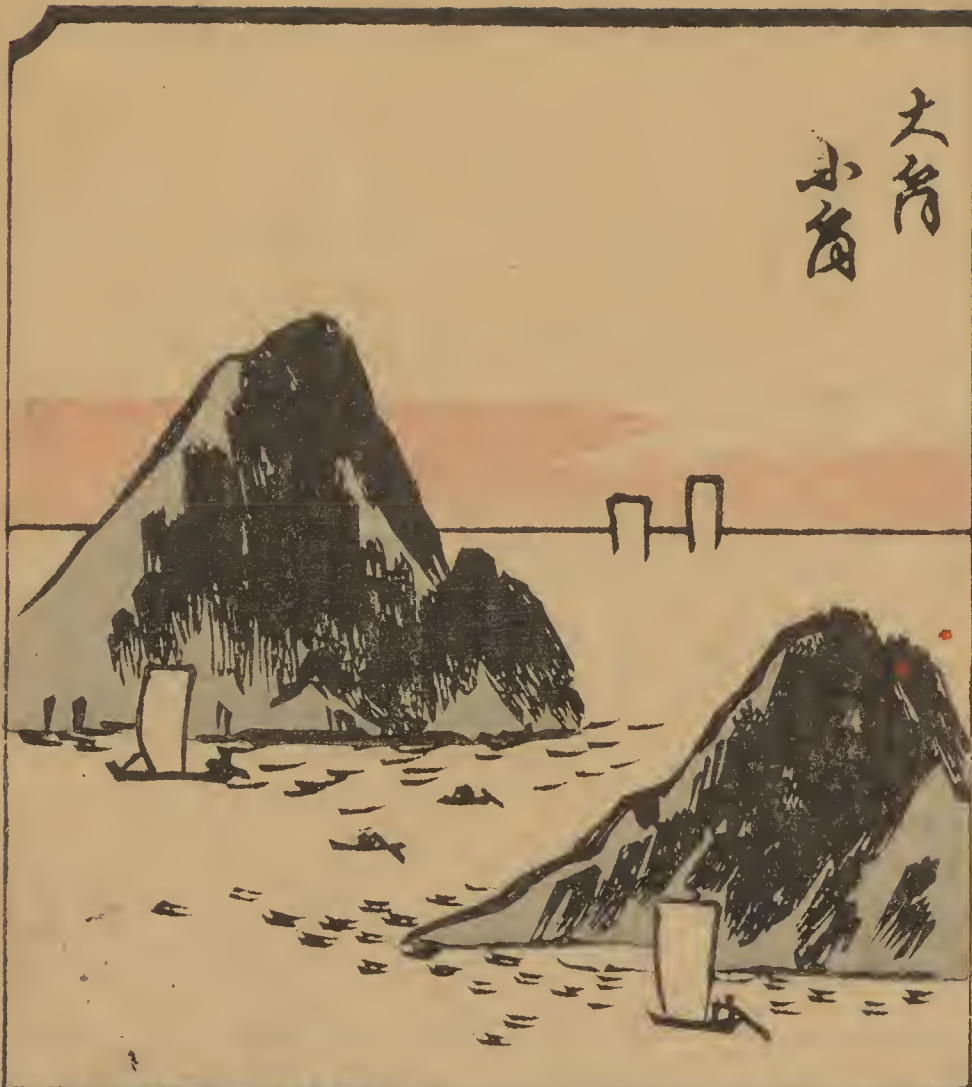


龜戸





大竹
小竹

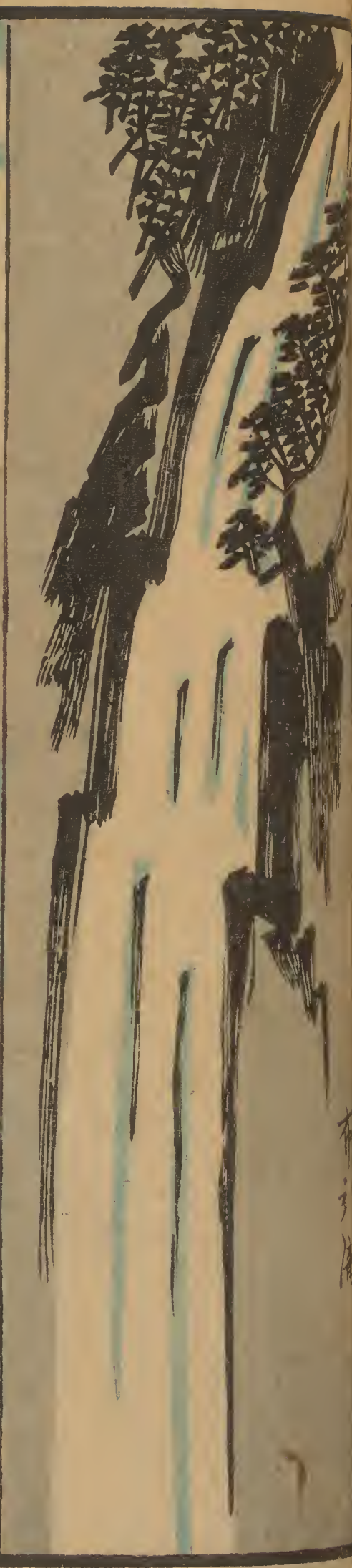


塔の海





甲斐
橋次



宝の津



明石浦



一ノ谷



源氏物語



源氏物語



不二沼



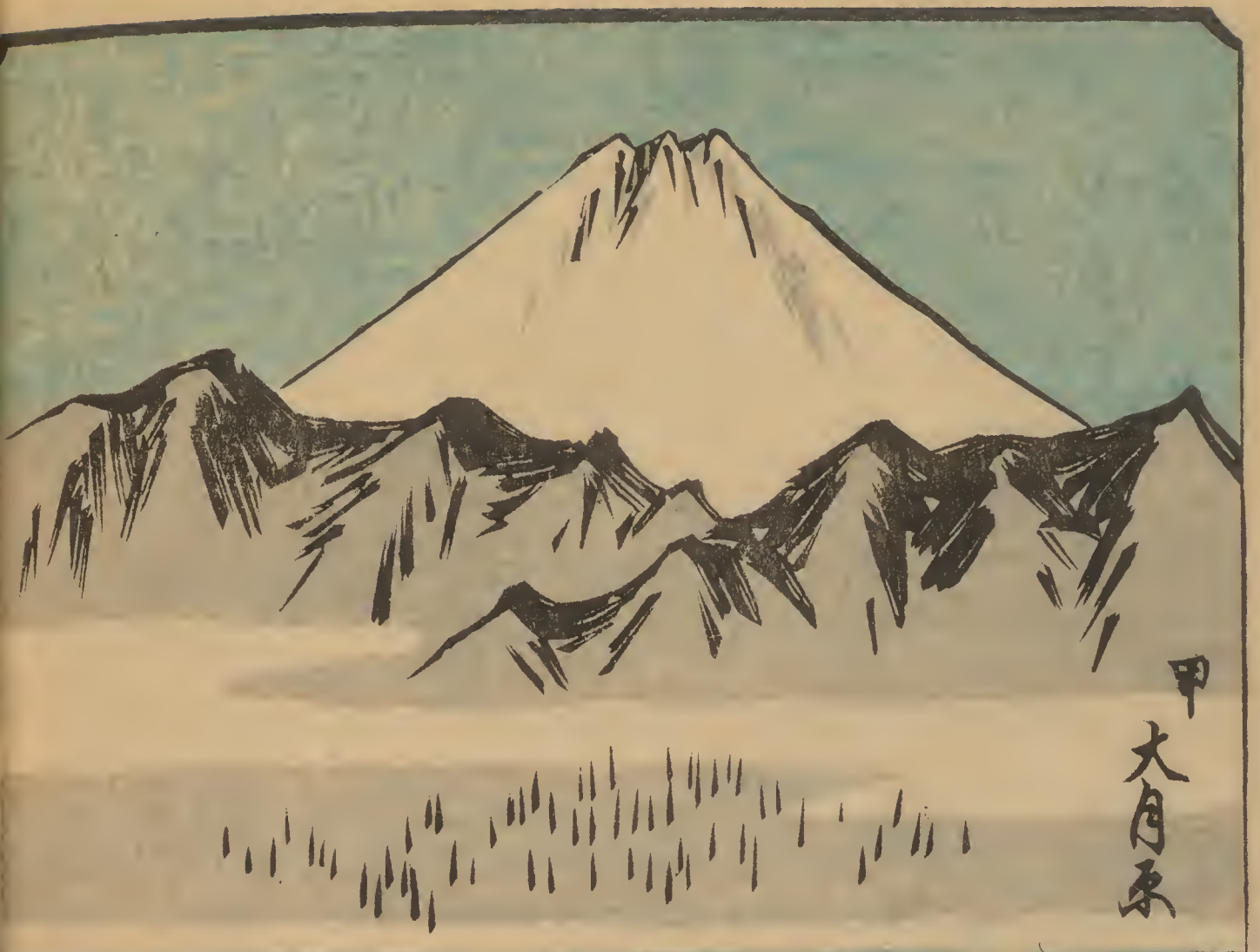
雀師



屏風岩



山家



甲
大月原



困
栖翁



首尾ノ巻



風舞



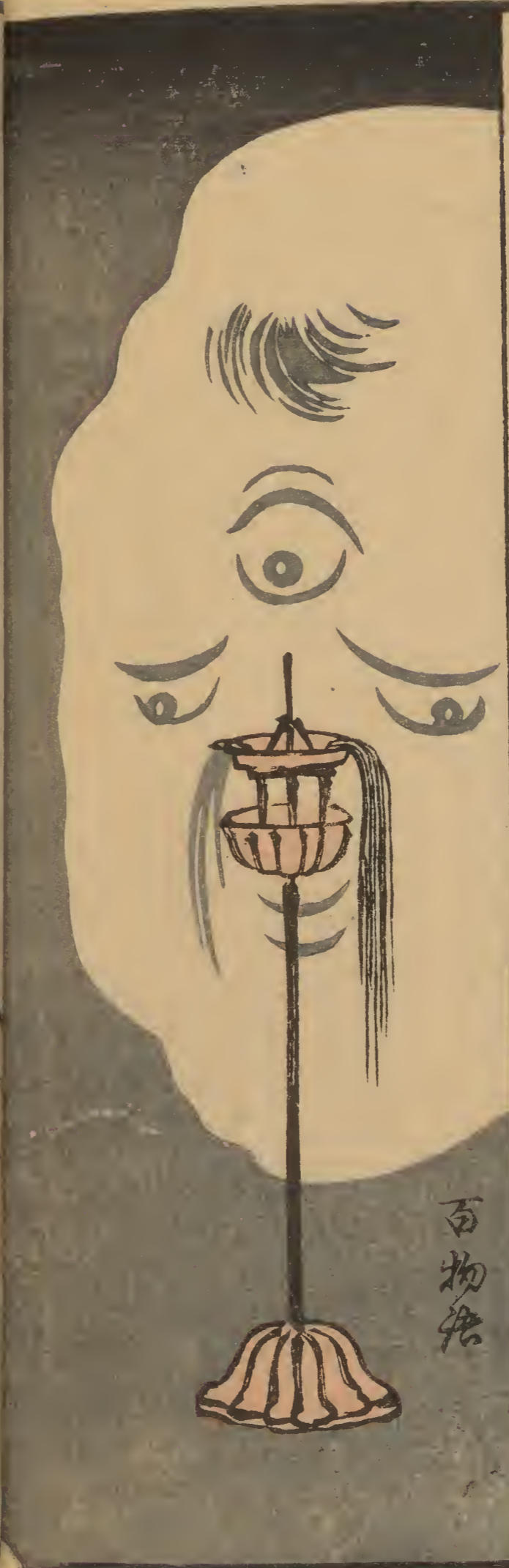


桑仙人



ついで





五条橋

百物橋



三都書林

京大坂 同東都 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 同通油川

吉野屋 勤共衛
 敦賀屋 九共衛
 綿屋 喜兵衛
 須原屋 茂兵衛
 同山城屋 伊兵衛
 山城屋 佐兵衛
 同 政吉
 出雲寺 萬次郎
 和泉屋 市兵衛
 山口屋 藤兵衛
 森屋 治郎兵衛
 子屋 平兵衛
 山崎屋 清
 藤岡屋 慶次郎

後

三筋

之番

朝比奈

收

九類

式亭子

